

(54) AIR BAG DEVICE

(11) 4-110252 (A) (43) 10.4.1992 (19) JP

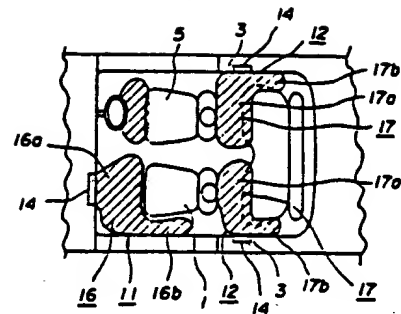
(21) Appl. No. 2-228736 (22) 30.8.1990

(71) IKEDA BUSSAN CO LTD (72) HIROYUKI IMAI

(51) Int. Cl. B60R21/22

PURPOSE: To reduce the quantity of air bag bodies and surely hold the front part and side part of a driver by integrally forming a front inflating part which bulges out the air bag body to the front surface side of the driver and a side inflating part which inflates to the side surface side of the driver.

CONSTITUTION: The air bag body 16 of the first air bag device 11 is integrally equipped with a front inflating part 16a which inflates to the front surface side of a driver and a side inflating part 16b which bulges out to the side surface side of the driver as a door 3 side, and the second air bag device 12 is equipped with a gas generator 14 fixed on the door 3 side, and a air bag body 17 is integrally equipped with a side inflating part 17b for holding the side surface side of the driver and a front inflating part 17a which extends to the front surface side of the driver.



⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平4-110252

⑬ Int. Cl.⁸

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成4年(1992)4月10日

B 60 R 21/22

7149-3D

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 エアバッグ装置

⑯ 特 願 平2-228736

⑰ 出 願 平2(1990)8月30日

⑱ 発 明 者 今 井 宏 之 神奈川県綾瀬市小園771番地 池田物産株式会社内

⑲ 出 願 人 池田物産株式会社 神奈川県綾瀬市小園771番地

⑳ 代 理 人 弁理士 秋 山 修

明 細 書

1. 発明の名称

エアバッグ装置

2. 特許請求の範囲

(1) 固定側に取付けられるベースプレートと、該ベースプレートに固着されたガス発生器と、該ガス発生器の作動により膨出するように取付けられたエアバッグ本体とを備えるエアバッグ装置において、前記エアバッグ本体は着座者の前面側を保持するように膨出する前部膨出部と、着座者の側面側を保持するように膨出する側部膨出部とが一体に形成されていることを特徴とするエアバッグ装置。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、車両等の衝突の際に乗員を保護するエアバッグ装置に関し、更に詳細に説明すると、固定側に取付けられるベースプレートと、該ベースプレートに固着されたガス発生器と、該ガス発生器の作動により膨出するように取付けられたエ

アバッグ本体とを備えるエアバッグ装置に関する。
〔従来の技術〕

従来より、車両等の乗員の保護装置としてエアバッグ装置が知られている。このエアバッグ装置として、特公昭56-43890号公報、実開昭59-155257号公報及び実開平1-117957号公報等が存在する。

エアバッグ装置としては、インストルメントパネルやステアリング等の固定側に取付けられたベースプレートにガス発生器が固着され、ガス注入口を有するエアバッグ本体がリテーナを介してボルト、ナットにより固着され、所定の条件のもとでガス発生器が作動した場合にガスが瞬間的にエアバッグ本体内に流入し、エアバッグ本体を瞬時に膨出させるようになされている。

前記エアバッグ装置は運転席側ではステアリング側にエアバッグ本体が収納され、また助手席側ではインストルメントパネル側にエアバッグ本体が収納されている。また近時側部衝突より着座者を保護する目的でドア側にエアバッグ本体を収納

している。

〔発明が解決しようとする課題〕

然し乍ら、従来のエアバッグ装置においては着座者の前部及び側部を夫々別個に形成されたエアバッグ本体により保持するようになされているため、エアバッグ装置の設置数が増大し、エアバッグ本体の数も増大し、著しくコストアップとなる欠点を有するものであった。

本発明の目的は、エアバッグ装置の設置数を減少させると共に、エアバッグ本体の数を減少させ、然も着座者の前部及び側部を確実に保持することができ、組付作業も容易で著しく経済性に優れたエアバッグ装置を提供するものである。

〔課題を解決するための手段〕

本発明は上述せる課題に鑑みてなされたもので、固定側に取付けられるベースプレートと、該ベースプレートに固着されたガス発生器と、該ガス発生器の作動により膨出するように取付けられたエアバッグ本体とを備えるエアバッグ装置において、前記エアバッグ本体は着座者の前面側を保持する

3側に第2のエアバッグ装置12を設けた場合につき説明する。

前記第1及び第2のエアバッグ装置11、12は固定側に取付けられるベースプレート（図示せず）と、このベースプレートに固着されたガス発生器14と、このガス発生器14の作動により膨出するエアバッグ本体16、17とを備えている。

第1図に示す第1のエアバッグ装置11のエアバッグ本体16は着座者の前面側を保持するように膨出する前部膨出部16aと、ドア3側である着座者の側面側を保持するように膨出する側部膨出部16bとが一体に形成されている。

第1図に示す第2のエアバッグ装置12は、ドア3側にガス発生器14が固着され、このエアバッグ本体17は着座者の側面側を保持する側部膨出部17bと、この側部膨出部17bの前端側より着座者の前面側に延びる前部膨出部17aとが一体に形成され、平面より見て略し字状にエアバッグ本体17が形成されている。

前記エアバッグ本体16、17を略し字状に膨

出するように膨出する前部膨出部と、着座者の側面側を保持するように膨出する側部膨出部とが一体に形成されていることを特徴とする。

〔作用〕

本発明に依れば、エアバッグ本体が着座者の前面側を保持するように膨出する前部膨出部と、着座者の側面側を保持するように膨出する側部膨出部とから一体に形成され、ガス発生器の作動により1個のエアバッグ本体が着座者の前面側及び側面側を保持することができるものである。またエアバッグ装置の設置数を減少させることができるものである。

〔実施例〕

以下本発明に係るエアバッグ装置を図面を参照して詳述する。

第1図及び第2図は、本発明に係るエアバッグ装置を車室に配設し、エアバッグ本体の膨出状態を斜線で表示した実施例を夫々示すもので、本実施例では助手席1のインストルメントパネル2側に第1のエアバッグ装置11を設け、左右のドア

3側に第2のエアバッグ装置12を設けた場合につき説明する。

第2図に示す第1のエアバッグ装置11のエアバッグ本体16は着座者の前面側を保持するように膨出する前部膨出部16aと、ドア3側及び運転席5側の着座者の両側面側を保持するように膨出する側部膨出部16b、16cとが一体に形成されていることを除いては第1図に示す実施例と同様の構成を有している。

前記第1及び第2のエアバッグ装置11、12のガス発生器14を作動させる検知信号を発生させる衝突検知センサーをドア3側及び車両のフロント側に配設し、これらのセンサーからの検知信号を第1及び第2のエアバッグ装置11、12のガス発生器14に伝達すれば、第1及び第2のエアバッグ装置11、12のエアバッグ本体16、17を膨出させることができるものである。

尚第1図に示す如く、運転席5側に前部膨出部のみからなるエアバッグ本体22を有するエアバ

ッ装置21を設け、または第1図及び第2図に示す助手席1側のエアバッグ装置11のエアバッグ本体16と同様のエアバッグ本体を運転席5側に設けてもよい。

(発明の効果)

。以上が本発明に係るエアバッグ装置の一実施例の構成であるが、斯る構成に依れば、エアバッグ本体が着座者の前面側を保持するように膨出する前部膨出部と、着座者の側面側を保持するように膨出する側部膨出部とから一体に形成され、ガス発生器の作動により1個のエアバッグ本体が着座者の前面側及び側面側を確実に保持することができ、またエアバッグ装置の設置数を減少させることができ、組付作業も簡易化することができ、著しく経済性に優れたエアバッグ装置を得ることができる。

4. 図面の簡単な説明

。第1図及び第2図は本発明に係るエアバッグ装置の一実施例の概略を夫々示すもので、第1図は、エアバッグ本体を車室内で膨出させた状態の平面

説明図、第2図は異なるエアバッグ本体を車室内で膨出させた状態の平面説明図である。

図中、11…第1のエアバッグ装置、12…第2のエアバッグ装置、14…ガス発生器、16、17…エアバッグ本体、16a、17a…前部膨出部、16b、16c、17b…側部膨出部。

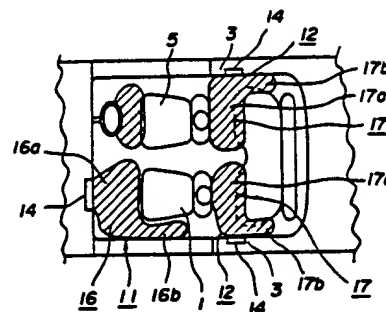
特許出願人 池田物産株式会社

代理人 弁理士 秋山 敏



Best Available Copy

第1図



第2図

